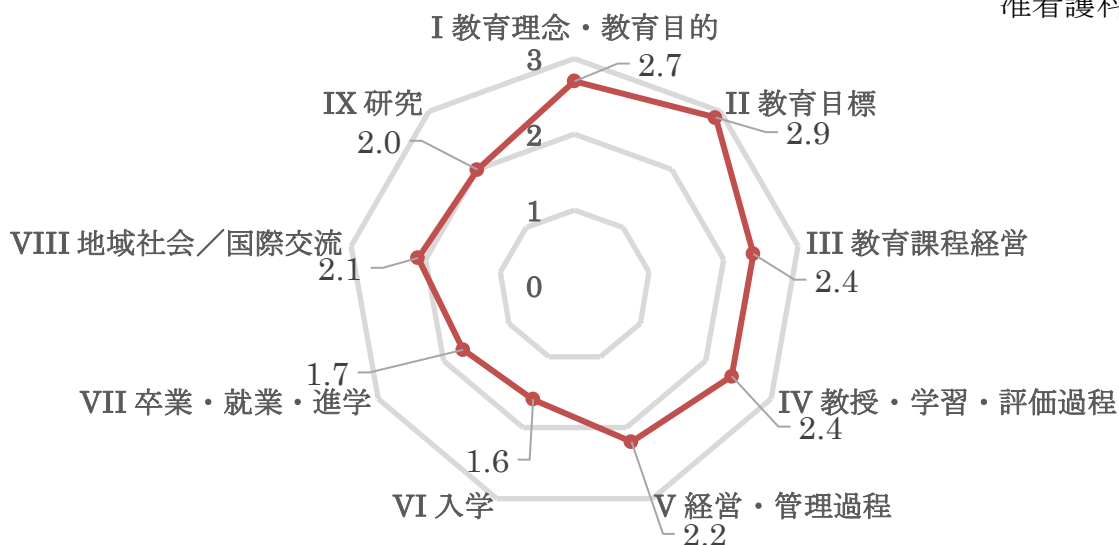


准看護科



令和4年度 評価の概要と今後の課題

I. 教育理念・教育目的

新カリキュラムにおいて、教育上の特徴や学生の指針となるよう具体的にすることができた。

II. 教育目標

新カリキュラムにおいて、教育目標を明確にし、教育内容と関連させることができた。今後は、教育目標に沿った教育ができているのか評価するシステムを構築する必要がある。

III. 教育課程経営

指定規則、別表4に基づき、科目は法に遵守できている。単元の時間数も適切である。科目と単元の構成及び各ねらいについては生徒便覧に記載し、入学時オリエンテーションで説明している。新カリキュラム実施初年度であり、講師との調整や生徒の状況に合わせてカリキュラムの修正を行いながら運用している。しかし、中間評価ができているため、その結果を踏まえ今後の教育活動に反映させていく必要がある。

令和4年度の教育・研究活動の実施については、以下の通りである。

教育・研究活動

日本看護学校協議会学会(オンライン)	1名参加
日本看護学校講義会九州・沖縄ブロック活動看護教員研修会(オンライン)	1名参加
日本看護協会出版会オンライン研修『看護形態機能学』の授業の展開	任意受講
准看護師教育実施施設部会(日本看護学校協議会)	1名参加
日本看護学校協議会 第3回教育研修会(オンライン)	1名参加
日本看護学校協議会 副学校長・教務主任会	1名参加
看護師卒後研修会(福岡県医師会 オンデマンド配信)	全教員受講

臨地実習においては、コロナ禍のため、約25%が学内学習となった。特に2年生は、基礎看護実習がほぼ学内実習となり、領域別実習で初めて臨地での実習となったため、生徒のレディネスを踏まえ、実習施設と連絡・調整を行いながら実施した。学内実習においては、紙面上患者および模擬電子カルテ教材の事例の選択や看護実践においてリアリティをもたせるなど可能な限り体制を整えた。模擬電子カルテ教材を取り入れた学内代替実習も実施したが、ICTの活用については、教員の力量にも差があり、十分に活用できたとはいえない。

生徒の安全対策として、総合保障制度、学生用 Will 保険に加入している。令和4年度の対応件数は17件であった。今後の課題としては業務の整備、効率化を行い、教員間で指導案の検討や授業参観などの機会を設け相互研鑽のシステムをつくることである。

IV. 教授・学習・評価過程

目標評価については、授業評価、実習評価、卒業時アンケートを実施している。授業評価は各教員が自己の授業を振り返り授業改善に向けて取り組んでいる。今後の課題として、授業評価の実施は、教務と一部の講師のみであるため、全科目のカリキュラムの評価を基に目標評価ができるよう

に整備していく。実習評価は、実施できているが実習指導者会の開催ができておらず、施設側と協議しながら評価を活用していく必要がある。卒業時アンケートは、集計結果を教員全員に周知しているが、結果の分析ができていない。今後、分析を加え、教育活動の評価活動につなげていく。

## V. 経営・管理過程

自己点検・自己評価を実施し次年度の目標へつなげるよう努力している。令和2年度より学校関係者評価を取り入れ、適正な学校運営・経営に努めている。

運営会議（紙面1回、対面3回）教務会議（1回/月）、進級判定会議（3回）、入学試験委員会（5回）である。講師会は中止（書類発送）、実習指導者会、主任会議、評価委員会は実施できていない。今後は、コロナの状況を踏まえながらも実施可能な方法・手段を検討する必要がある。学生生活への支援については、各種奨学金について周知し、対応している。スクールカウンセラーを配置し（非常勤）、生徒の相談を受ける体制は整えているが、令和4年度の相談実績は0件であった。

## VI. 入学

コロナ禍の中、感染状況に応じた活動となった。募集活動としては、学校訪問（のべ20校）、ガイダンス（2回/年）への参加、オープンキャンパス（対面2回、オンライン1回、計3回/年）、個別学校見学（1名）を実施した。学校訪問は、大牟田市内とその周辺に絞って実施し、その他の各学校には電話による入試の告知を行った。しかし結果は、令和5年度も定員割（充足率41.4%）である。

退学者数の推移

2018年度生	2019年度生	2020年度生	2021年度生	2022年度生
11名	4名	8名	7名	9名

2022年度生は2023年3月末現在の数

受験者数の推移

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
49名	37名	37名	43名	43名

受験者数の減少により入学者選抜が厳しい状況である。令和3年度より社会人入試を導入し、今年度は3回実施したが、受験者は9名と昨年度より減少した。令和6年度は一般入学試験6回に増やし、入学生確保に向けて強化していく。また、進学サプリを通しての募集要項、願書の発行部数は、44部（全発行部数の34.6%）出願率は2.3%（前年度は3.4%）であった。今後入学生確保へと結びつけられるように広報活動に努めていく。

## VII. 卒業・就業・進学

福岡県准看護師試験結果は100%合格であり、令和4年度の目標は達成することができた。就職率は84.6%と未定者もいるが、近郊への就職率は100%であり地域医療を支える人材育成としての役割は果たせていると考える。進学率は65.3%（昨年は54.1%）、進学者17名のうち16名が本校看護科へ進学した。今後の課題として、卒業生の就業先での評価の把握や就業先との情報交換、調査等は実施していないため、就業先との連携を図りながら地域に定着し貢献していけるように支援して行く必要がある。

## VIII. 地域社会／国際交流

養成所の情報提供については、ホームページや進学サプリへの参画、LineやインスタグラムなどのSNSを通し情報を発信している。学校周辺の清掃活動は実施できたが、コロナの影響もあり、その他のボランティア活動は実施できなかった。

## IX. 研究

令和4年度は研究活動に取り組んだ教員はいなかった。各教員が自分のスキルアップのため自己研鑽に努めるとともに職場環境においても支援する環境、雰囲気作りや時間の確保への配慮が必要である。

### 令和5年度 准看護科 目標

1. 新カリキュラムの適正な運用
2. 学生確保と学生支援の充実
3. 令和5年度福岡県准看護師試験全員合格

## 令和4年度目標評価

准看護師科

1. 新カリキュラムの適正な運用
2. コロナ禍における学生支援の充実
3. 令和4年度福岡県准看護師試験全員合格

- 評価基準
- A: 計画通り達成できた
  - B: おおむね計画通り達成できた
  - C: 計画通りできなかったところもあり十分でない
  - D: 全く達成できなかった

目標	計画	実施状況（評価の判断理由）	評価
1. 新カリキュラムの適正な運用	①シラバスの作成・配布 ②カリキュラムの調整・評価・修正 ③実習計画の修正 ④実習要項の作成 ⑤各実習施設との連絡・調整 ⑥講義準備時間の確保	①シラバスの作成が遅れた8月の配布となった。すでに開始となっている科目についてはその都度生徒へ提示し学習に役立つように努めた。 ②講師と調整しながら運用できた。しかし、評価・修正は不十分である ③実習施設の調整を図りながら修正は行えた。 ④計画・準備が遅れ、その都度の作成となった。年度内での完成には至っていない。 ⑤各実習施設と連絡・調整を図ることができた。特に新しい実習施設である特別養護老人ホームでは、全教員が1日研修を実施した。各診療所へも調整に出向き実習への準備が出来つつある。 ⑥通常業務に追われ、準備時間の確保は困難であった。計画において、重点課題を挙げるなど具体的な計画立案が必要である。	C
2. コロナ禍における学生支援の充実	①濃厚接触者、陽性者への適切な対応 ②体調管理及びメンタルヘルスの充実 ③オンライン授業・実習の充実	①毎日の体調管理シートによる体調管理は行えている。陽性者、濃厚接触者へは学校の基本方針に基づき対応を行った。感染予防対策の継続、生徒への注意・喚起に努めた。コロナ感染者数は17名（30%）。ワクチン接種率は56%。濃厚接触者はオンラインによる授業参加とし、学びの確保を行った。罹患した生徒に対しては、加入している保険申請を行い、見舞金の給付申請を行った。（16名）また、感染による体調及び後遺症の確認は行えた。 ②年間、2回の面接を実施。メンタルに問題がある生徒へは継続的に声をかけるなどのかかわりをもった。メンタルによる休学者1名。退学者は0名。しかし、長期欠席や学業不振など退学の関連要因として考えられるため、今後も対応の継続が必要である。 ③計画していた学習会の開催は出来ず、個々の教員の力量に任せている状況である。	B
3. 令和4年度福岡県准看護師試験全員合格	①1年生「学習習慣の定着」 ②2年生「県試験全員合格」 ・成績不良者への個別指導 ・模擬試験の活用と問題集の取り組み	①提出物や見直し学習の状況などを把握し、個別に対応。終講試験の結果では学力の差が大きい。低学年模擬試験の結果は偏差値50.4。学力不振による退学者は1名。目標に対する評価基準があいまいであり、次年度は綿密な計画が必要である。 ②問題集の取り組みの状況を把握し個別対応を実施。年3回の外部模擬試験の実施。生徒の学習意欲に合わせ、勉強会をするなど対応した。忍耐強く継続的にかかわりを持ち福岡県准看護師試験は全員合格することができた。	B